

現在、日本では、男性の3人に2人、女性でも2人に1人が一生の間になんらかのがんにかかります。私もその一人でしたが、毎年100万人以上の日本人が新たにがんを診断され、その3分の1が働く世代の人です。

がんは細胞の老化とも言える病気ですから、年齢とともに発症者は増えます。しかし、乳がん、子宮頸(けい)がんは例外的に老化以外の要素が大きく、54歳までは女性に多い病気です。定年が延長され、働く女性の割合が増えることで働く世代のがん発症は、さらに増えると思われます。

がんは、少しの知識とそれに基づく行動によって、運命が分かれてしまう病気ですから、

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

その解決には企業の力が不可欠です。

このような状況に一石を投じる素晴らしい取り組みを、大手IT企業の富士通が1月から開始しました。それは、富士通の国内グループ7万人を対象として、がん教育を実施するというものです。教育内容の監修には私も協力させていただきました。私の知る

限知っておくべき点をまとめた私の講演と、ネットを介したeラーニングで構成されています。eラーニングの教材は、がんの基礎知識から予防のための生活習慣、がん検診の重要性、仕事と治療の両立に至る幅広い範囲をカバーした大変充実したものになっています。

富士通は社会貢献の一環として、この教材を自社利用だけでなく、職域におけるがん対策を進める国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」を通じて広く利用できるよう公開予定です。

この取り組みが日本のがん対策の変える、大きな一歩になることを期待しています。

(東京大学病院准教授)

大企業が始めた大人ののがん教育

ら、「がんを知る」ことが大切です。中学、高校の学習指導要領に「がん教育」が明記され、現在、全国展開が進められています。

育です。学校でがん教育を受ける機会はありませんでしたし、就職後もそのような機会を得ることは困難です。この「大人のがん教育」の不在は、わが国の大きな課題であり、

限り、これほどの規模でがん教育を実施した企業はなく、世界でも類を見ない先進的な取り組みです。

富士通のがん教育は、がん

で命を落とさないために最低